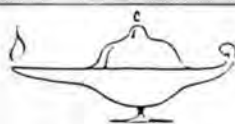


ともしび



1988. 2

第 3 号

—大学婦人協会東京支部会報—

- 変らぬ世の姿と心を
- 座談会—東京支部、これからの方向をさぐる—

'87 セミナーを顧みて

九月二十六日(土)、二十七日(日)

に、嵐山の国立婦人教育会館で行われたセミナーに、東京支部は、研究発表を行い、設営および懇親会を担当した。女性の意識改革とその確立をテーマとした研究は、三月より三回行われた勉強会「婦人の地位向上のためのナイロビ将来戦略」からスタートした。その時点から広く支部会員全員に参加をよびかけたが実際に参加された方は少なかった。

東京支部委員は設営を担当し、受付及び会場の二手に分れて資料の配布準備、会場作りなど前日から準備し、期間中は現場を悉く取りしきった。又同時に支部研究発表の資料翻訳まとめ及びインタビューなど委員の協力のもと、支部長の研究発表も好評を博した。伊東会長の歌、支部委員の指導による全員合唱など盛り上がり、楽しい会となった。

詳しくは、本都会報、セミナー報告書をお読み頂きたい。

因みに本部反省会に支部委員数名が参加、いろいろ問題提供をした。今後の課題は、より多くの会員の参加を得ることである。

(大森)

JAUWとの出会い

細越幸子

四月にJAUWに入会してから早くも九ヶ月になる。「婦人の地位向上のためのナイロビ将来戦略」勉強会、続いて全国セミナーに参加して、大いに啓蒙された日々であった。

勉強会では講師の方々の明快な講義によって、日頃馴染みの薄い政治や法律が身近なものになり、よその国の問題が私達の問題でもあることに気が付かされた。講師のお誘いを受け女子差別撤廃条約委員会で検討された締約国の国情報告書の委員会レポート翻訳にも参加してみると、世界中どの国でも女性問題は大同小異で、現象はさまざまでも根は同じであると痛感した。

セミナーに向けての東京支部の研究が、英国のWISE運動の紹介になったことから、(英国の)各種関係資料を見る機会にも恵まれたが、これは数年前テイペイトで「雇用は男女平等にするべきである。」に取り組んだ時の日本の資料と内容、状況共に良く似ていて、女性問題は万国共通の感を一層深くした。それで他支部の研究に多大の興味を持ってセ

ナーに参加したのである。

セミナー全体の印象は、「真面目なお祭り」であった。良かったことは、第一にセミナーを通してJAUWへの理解が深まったこと。第二にさまざまな研究が聞けて、東京のも好評だったこと。第三に大勢の方々とお近づきになり、いろいろ教えて戴いたこと。勉強会でもそうだったが、皆様が新米にとても良くして下さいました。食事時や夜のおしゃべりの楽しかったことなど忘れられない。

残念だったのは時間の割に盛り沢山で、一部内容が薄まった様に思われること。報告が多過ぎるのではないだろうか。各支部、各委員会の平均持ち時間十三分は準備充分のところには少な過ぎ、準備不足のところには多過ぎる。事前に研究内容を本部に提出し、報告数を限定するとか、年毎に交代でやるとかしたらどうだろうか。内容の充実こそセミナーの魅力だと思ふ。

今後JAUWに望むことは、「良く学び、良く遊べ。」の実践である。共に中味の濃いものにしていきたい。



二緑あつての文学入門講座に、古典大好き人間は、どの位嬉しく勉強に励みましたことか。原稿用紙のまを埋めるのも久々とあつて、そこそそ斉藤別当実盛が錦の直垂を申し請け白髪を染めて出陣したあの思い宛らというところだ。

文楽の人形が始めた手法で、例えば忠臣蔵の大序―事件発端の場に華麗な朱塗の社殿を背景として夫々の人形、いや人物が居並ぶ―最初は魂の無い木偶で首も手もだらりと垂れているのが、一度析が入ると口上につれてその一つ一つは、きつと顔を上げ、夫々の性格や事件の成行が明らかにされてゆく―今では歌舞伎の生身の役者がその人形振りで演じますが、それに似た面白さを私は「枕草子」の講座をお引受けした時から味わっています。今迄は知識に過ぎなかつた事柄や人物が、文字の中から思いがけぬ迫力で語りかけ答えてもくれるその面白さに、魅せられたように一回毎のテーマが定まってきました。

第一回目は総括的に文学へのとりくみの問題や、中宮定子と清少納言のかかわり方のお話を、本文から探ってみました。次は四国の旅館で思いがけず百人一首のテレホンカード

に中宮定子の母高階貴子が選ばれているのに巡り合い、それで第二回目のメインテーマが定まりました。そのテレホンカードのもう一人の女性是小野小町。美女らしく紅の十二単衣、花の色は移りにけりなの歌です。貴子は儀同三司の母という作者名でそれらしい水色の地味な袷に白い裳を着けて描いたのは一応肯けるとしても、親切に添えられた歌の説明―これはそのまま記しますのでお読み下さい。『お前のことは忘れないとあなたはおっしゃったわね。ほんと

変らぬ世の女心

山内正子

し。そのお言葉信じられるのかしら。行末のことは頼みがたいわ、それよりもいつそ今日のこの恋の幸福の絶頂で死んで了いたいわ」とありました。間違つてはいないのです。でも貴子は決して決してこんな言い方はしなかつたでしょう。「忘れじの行末までは難ければ」という言葉には当時の女性の地位を見据えた嘆きがあり、それなればこそ、得た恋の喜びの大きさが今日を限りの命でも満足、という表現になりました。事実としての貴子の生涯は、関白の正

室、三男四女の母、しかも長女定子は一条帝の類まれな寵を辱うし、その美も、教養も、人柄の明るさ豊かさも、すべて母の力に依るとされる程の人の作にこの紹介の仕方―私は寧ろ情なく読みました。今言う所の古典ブームが、古典への正しい受容と鑑賞に水をかけないことを祈る次第。それにつけても古典の現代語訳の難しさと、それなればこそ古典の原文による理解鑑賞の重要性を強調したいのです。日記を敢えて古文で記した樋口一葉の実力と努力には頭

が下り、もつと生きて作品を残して欲しかったと思います。円地文子の「生神子物語」はフィクションであってもよく古典を生かし切り、平安の時代の人の心をまざまざと描いてみせて尽きない。枕草子を読むには栄華物語の延々と続くおきまりの表現よりは、大鏡の遠慮のない人物描写が違つて側面を見せてくれる。それにしても、山は登れば登る程高さが分るとはよく言ったもの、辿る程に行く程に、果てしないことだけは確かです。ただ、有限であるこの人生を

どう生きたら空しくなく出来るか、それを考えて行けたらと思います。あれだけ賢い貴子が、夫道隆の急死に始まる中関白家の凋落に、せめて定子のけなげさの半分でも持つていてくれたら。殆ど謀略に近い道長方の圧力で、伊周達の流罪が定まった時、一家あげて定子の袖に縋つて動こうとしなかつた時、貴子が本当の愛を強く実行する事が出来たら、御産の後消え入るように死んだ定子の悲劇を或いは避けられたかも…と思わずには居られない。甘やかされた男性の弱さを伊周は露呈し、いつの世にも変らぬ教育ママの悲劇がそこに在った。同じく悲運の中の死にしても定子には愛に殉じた一種の安らぎがあるのに、その母の晩年の悲惨は救いが少しも無い。古典の中に変らぬ人生のテーマを見、受容は誤りのない心の問題でありたいものである。

祖父は讃岐の金比羅様近郊の村社を継ぐ神官で、歌集や著書を残し、父は東京在住の文人らしい学者で書画愛好。四女の私は、早く父を亡くし母の熱望で女の自立の道を女高師の文科で教えて頂きました。学校からの派遣で呉竹寮に前後二十年の宮仕えを経験、但し万事は夢。大正以来関東大震災、各種パニック、戦争で鍛えられ齢七十を過ぎる猶古典大好き人間。

他支部活動紹介

奈良支部

安田順恵

会員数は百名。会費収入年間十数万円の零細な台所。その上支部長が非才な若輩者。先輩支部長並びに会員諸姉の絶大なる応援をいただいで本年度は左記のような行事をさせていただきました。

一、地元赤膚焼の陶器窯元の見学と絵付け。

二、特別講演と映画の会。「西暦二千年に向けての発展」と題し、県下からナイロビへ行かれた三人の講師を招いて本部セミナーの発展のテーマを取り上げました。県の婦人問題啓発フェスティバル参加事業として注目を集めました。

三、「モーツァルトを聴く会」開催。モーツァルト室内管弦楽団より六名の演奏家を招き、「狩」他二曲聴き、満席の嬉しい悲鳴。終了後の演奏者との夕食会は好評でした。

四、「春日舞楽について」。春日大社南都楽所楽頭で奈良大学助教授の笠置侃一先生の講演を伺いました。

来年は、シルク博に因んだ行事を予定しております。

新潟支部

小林美代子

「ナイロビ将来戦略と私たち—新潟県における婦人問題、特に高等教育と女性の社会的地位について」を今年の支部セミナーのテーマとして、県内在住の高等教育をうけた女性三百人にアンケート調査した結果をまとめ、九月に全国セミナーで発表し、会員こそ女性の社会的地位の向上に役立つ使命のあることを再確認しました。そこでこれを機会に、県や市町村の審議会等の委員に、会員の中からできるだけ多くの方を送ろうと、実践活動に意欲をもやしているところとす。

年度の後半は楽しみをということと、十一月一日福島県喜多方蔵のまをを訪れ、伝統文化を楽しんできました(二十名)。支部最大の事業である「奨学賞を贈る会」は一月下旬開催、大学、短大、高校の卒業年次の女子各一名計二十数名を表彰し記念品を贈るもので、今準備中です。

フランソワのこと

宮島茂子

一九八七年度の国外奨学金は、何名かの応募者の中から選ばれたフランソワ・ロカボアさんに授与されました。一昨年はアメリカ、昨年はインド、今年はフランスと、対象者も国際的になっています。

彼女はリヨンで生れ、レネ大学の物理化学科を卒業後、ロンドン大学で音響学の修士の資格をとりました。専門は楽器を作る木質の研究です。ロンドン大学の大学院を卒業してから、研究を続けるために、フランスの弦楽器のメーカーで働きました。

日本に留学したいと思った理由は、超音波測定の機器が優れていることと、日本の木質研究が、いくつつかの面で進んでいることです。九月に來日し、東大農学部林学科で半年間研究する予定で、現在JAUW会員の長谷さんのアパートに住み、長谷さんに色々教えて頂いて、自分は大変ラッキーだと感謝しています。

日本に来てすぐ開かれた、白井委員長宅での歓迎会の席上で、日本語の勉強をしたいとの希望で、私が週一回一時間半日本語を教えています。その間分ったことは、大変頭がいい

こと。音に対してよい耳を持っていること。そして努力家であることです。未だ二ヶ月余りですが、ずい分進歩したと思います。

その間東京支部委員の峯川さんのお招きで、能・狂言を見、伊藤さんの御世話で、お琴や尺八などの音楽会に度々行き、白井先生と京都に行つて、京都支部の方々のお世話にもなりました。又東大の研究室の人々と甲府へ一泊旅行し、日本旅館に泊り、男性が浴衣に着がえて、お酒を飲んだといつてびっくりしたり、研究室ではバッタのようなもの(イナゴ?)を食べたり、何に対しても前向きです。

目下は殆ど毎日、講道館に柔道の稽古に通っており、まさに研究と、日本文化の吸収に、全力を注いでいるという感じですが。

日本に長くいても、本当の日本を見ず、知らずに帰っていく外国人の多い中で、彼女のように、自分の研究をしながら、しっかりと日本を見、文化を吸収しようという女性には、未だ出会ったことがありません。その意味でも、JAUWは、その奨学金をベストに生かしたと思いますし、彼女にも出来るだけ長い間日本にいてほしいと思います。



座談会

—東京支部、これからの方向をさぐる—

出席者(発言順)

大坂裕子(慶大卒、フリーのマーケティング調査、企業コンサルタント、20才代)

川村みどり(慶大・ポストン大卒、翻訳会社社長、40才代)

白井典子(中大卒、弁護士、二男二女の母、40才代)

三宅和子(中大卒、公務員、40才代)

山田真理(上智大卒、建設会社勤務、20才代)

新美智留(北大卒、製薬会社勤務、20才代)

司会(ともしび編集部)

はじめに

東京支部会報も今年で一年経ちました。今回フルタイムで働いていらっしゃる、日頃交流の少ない会員の座談会を開き、大学婦人協会に何を期待しどんな形で参加したいか、また現在の仕事を通じて考えていること、職場での女性の現状など活発な意見を伺いました。女性の地位向上に協会が今後どのように働きかけていかなければならないか、皆様方にお考えいただければ幸いです。



入会の動機は?

司会 先ず皆さんにJAUWに入られた動機を伺いたいと思います。

大坂 私が初めてこの会の名前を知ったのは日米教育委員会というところで、近いうち留学したいと思っていましたし、奨学金が出るということでも会員になりました。慶応の婦人三田会に入っておりまして、女性がこのような会を持つことにも興味がありましたし、将来いろいろな面でいいことがあるのではないかと思いました。

川村 私はポストンにいた時の親友からAAUWの集まりに誘われました。その時、貧しい村で育った女性が栄養失調で目が見えなくなつたのを知って、イギリスで博士号を取り眼科の医者になつたスリランカの女性の話など、エリート上がりではなく、自分の力で苦勞して地位を築いた方の話を聞きました。こういう会は日本にもあると聞いて入会しました。アメリカの組織はア

グレップで戦う姿勢を持っているのでちよつと結びつかなかったのですが。白井 私は内容を知らないうちに入りまして。弁護士の集まる婦人法律家協会が伊東会長からセミナーのお誘いを受け参加しました折、年令に関係なく生き生きとお話なさっていらつしやるのを伺いとても良かったんです。弁護士会の集まりとは毛色の違うきらびやかで優雅な女性の集まりで、法律とは関係のない観点と視点が違う、価値観が異なるという点で非常に面白いと思いました。

三宅 私は東京支部の或る催しでこの会を知りました。政治色もないし、女性の会としていろんな方がいらして人間関係が広がっていくから、おばあさんになつた時友達が出来ると言われ入りました。

山田 大学時代に学校の掲示で知りました。会員になつて先生が国際的な活動をなさっているということや、女性が職業を持つてどんな活動をなさつていらつしやるのか興味を持つていたし、この会を通じて職業を持つ者として悩みを話したりアドバイスを聞けたらと思つて入会しました。

新 私が大学の時、母が札幌支部の英語の会に入つていたのでその仲間から誘われました。母からどういふ会か聞いていましたし……。

若い人にも興味のある企画を

司会 皆さんフルタイムで働いていらつしやると平日の企画には出られないと

思いますが、もし時間さえ都合がつけば出てみようと思われませんか。山田 この前の板橋の老人医療センターに行きたいと思いましたが、時間の都合がつきませんでした。

大坂 私はフリーなので時間の都合はある程度つきますから、興味のあることには参加したいと思つていきます。例えば、一方的に(受け身で)参加する形でない催しや、ビジネス関係やビジネス界で活躍なさっている方の講演だつたら参加したいと思つていきます。テーマと参加する形によって行きたいものが決まると思います。

川村 私は労働時間が平均十五時間くらいなので、帰宅するとバツタリという現状です。ただ教養レベル的な美術鑑賞会や読書会には興味ありませんが、「外国人に日本語を教える講座」など、一年間で目標を定めて学校方式のようなものがあれば参加したいと思つています。また、前にワープロ教室がありました。また、もっとと長期間続けてやり、女性の再教育としてお金を稼ぐものになるようなものや、大坂さんの言われたようなビジネス関係の講座であれば是非行きたい。

白井 この会はだんだん高齢化していくので、もっと若い新人類と言われる方達にとつて興味ある会にしていくにはどうしたらよいか。現に契約社会、コンピュータ社会であるから、そういうものに馴染むようなものを取り入れて若い方の興味が向く方向へ持つていくべきだと思います。だから教養の場

合でも、夜の時間にするなど若い方を繋ぎ止めるような工夫が必要。年間行事の計画も早い段階で入れて頂くこと参加し易くなるのではないのでしょうか。

司会 そうですね。若い方は自分の仕事にメリットがあるとか、また疲れている方はストレス解消の楽しいものがあるとか、企画の段階で何を選ぶか非常に難しいところですよ。

白井 ですから会の在り方がどの方向に向かうかを吟味する必要があります。セミナーもありますが発給的ですね。それでもいいですが、一つはずっと継続して関連性のあるテーマを取り上げていくって蓄積を作るなど、会員のニーズにあった状態に持っていきたいです。

教養をつけたら即実行を

司会 支部委員も主婦兼業で大変なんです。年代が若くなるにつれて時間の余裕もないし、子育ての期間は出来ないなど色々な事があって。また予算も限られていますし、でもその中で何とか打開して皆さんになるべく参加して頂く為に御意見をお伺いしたいのです。

山田 何か一つ目標をもって一年間通じてやるコースがあるといいと思います。同じ会社の人でも英文会計などやったり、外国人に教える日本語養成学校に行ったりして、時間もお金も努力もかけたいと思ってる方が多いですよ。

司会 この会は、月謝を払って学費専門学校とはちょっと性格が違いますし、全く同じようには出来ないと思いますよ……。

川村 いわゆる営利団体ではないのでボランティアで立派な先生を招くことは可能だと思います。例えば、将来自分に力がつくようなコースを一つでもいいから始めてみる。英語が読めてワープロが打てるなど現実的でよいと思います。会員の中には有能な方が沢山いらっしゃるし、その力を結集して何か実のあるものにしていくことがこの会のアピールになると思うんです。



白井 本来は会員の勉強だから研究会が

あってもいいのでは。英語が出来る方が沢山いるのに何故それをしないのか、対外的な講師を呼ぶからお金がかかるんです。英会話とか英語の読書会なんか、今やりたい方が一杯いると思うんです。だから研究部会で、対外的なものではなくて内部で会員の力を生かして会員を養成するということになると思います。これだけの人数がいるのに、こつこつやる地に足のついた研究会がないというんでは。

新 私は今、何でもやりたいのでいろいろ

な事に参加したい。先ず英語の勉強をして、国際人としての英語の力をつけたいと思っています。

司会 以前日本語講座を一年間続けてやりましたが、その準備が大変なんです。また、或る程度ボランティアで外国人に日本語を教えることは出来ても、日本語教師の資格試験を受ける為の養成講座までは難しいのではないかと思います。

白井 ですから目的をはっきり持って、教養を高めるのであれば、北海道支部でやっている英会話教室を見習ってもよいし、細く長く続けていくのが本来の女性の地位や教養を高めていく目的に沿ったものではないでしょうか。ボランティアならボランティアでこの会として何かやってもいい。一生懸命内部で議論しているだけで何もやっていないのではね。教養をつけたら即実行して何か得るものがあれば、ということが必要なのではないでしょうか。

川村 例えば子育てが終わって何かしたいと思う女性たちに力を貸してあげられるのではないのでしょうか。上の方でアカデミックな話が動いていて、その下が空白のようなイメージを受けるのが残念です。

仕事の中で考えること

司会 とてもいい御意見を伺ってありがとうございます。それで次に、今日お集まりの方は色々な職業の方々が、ご自分のお仕事のこと、職場に於ける男女雇用の実態、家庭観、結婚

観などについて自由にお話いただきましたと思います。

白井 私の場合、夫と二人で弁護士事務所をやっているのですが、時間的に自由がきいて、四人の子供を育てる時、姑の助けも借りましたが、子供が小さい時は家庭七件事三位でやりました。子育ての時はゆつくり子供の為に育児をしなから家で教養を身につけ、その後じっくり働けるような状態を作りたい。あの時期家においても、弁護士として大切な人間関係がわかり、相手の気持が理解できるといふ点で私はマイナスではなかったと思います。機会均等法がしかれ、女性の優遇措置がなくなつたので、かえって一層の努力が女性に必要となつてきました。男性が理解してくれなければ女性の地位も上らないのですから男性の協力が必要だし、これは根気と努力のいることです。又、女性が管理職につくと他の女性が足をひっぱる事があります。近視眼的に物を見やすいと言われている事なども頭に置き社会を見る目を養ってほしいと思います。

司会 これから結婚する方はずっと仕事を続けていかれると思いますが、どうですか？

新 私は、結婚しても働きたいとよく話し合い、それで駄目というようになるとは結婚しないでしよう。

大坂 私が今仕事をしていて、結婚という事が起これば自然に私の人生に組み入れていくと思います。私は社会に出ていくタイプだと思いますので、結婚

は結婚しないでしよう。

大坂 私が今仕事をしていて、結婚という事が起これば自然に私の人生に組み入れていくと思います。私は社会に出ていくタイプだと思いますので、結婚

するならば私を女性としてより個人として見てくれる人を選びたいと思います。

私の仕事はフリーのマーケティング調査と企業コンサルタントなので、女性の目で物事を見る事を生かしています。私のクライアントは今四社で、この道に入って三年たったところです。

司会 家庭ではどの様な育て方をされましたか？

大坂 父の経営する会社とすまいが一緒でしたので、人が社会に出て働くのを見て育ちました。母は結婚して子供を育てるだけが女性の生き方だとは思っていませんでした。

川村 私は五人の社員と三十人の派遣社員を使って翻訳会社を経営していますが、女が会社をやって行く事は、私の経験では家庭を捨てることです。私は家事一切を放棄しています。私の場合、従業員をかかえ期日にお金が入らなければ大変なことになる、という状況です。今後女の人が社会に出て行くには、弁護士さんのような特殊な技術を持ち、時間も比較的自由になる職業を選ばれるのが賢いと思います。

司会 家庭を持つ女性が仕事を続けて行くにはかなり経済的投資が必要ですね。それをしないで両立させようとして仕事もおろそかになる場合が多いと聞きますが、どうお考えですか。

川村 それは女の人が働いてどれだけの収入を得られるかにかかっていると私は思います。

白井 職種によっては仕事を減らす事は大変。仕事をやめないでいこうとする

と自分の給料を全部お手伝いさんを頼むに出すこともあるでしょうが、それはその人の価値判断でその人々の状況によって違うわけです。

川村 女性の給料は比較的低いので余裕がない人が多いです。稼いだものを投入して子育ての為にお手伝いを雇える人は少ないと思います。そういう人達に対する社会や男性の冷たさに対し、大学婦人協会が力を貸すような組織になってほしいと思います。

司会 行政に働きかけるといふ事は大学婦人協会でもやっています。

白井 派遣業などに若い人を入れた方が代替性があるという事になると便利なように女性の地位は高くなりませんか。

司会 山田さん、五年目ではいかがですか。
山田 派遣業で事務職とか英文タイプという使い捨てという感覚が強く、女性が多い。トレースができた、図面がかけて臨時に建築のプロジェクトの為二年間契約します、というような技術を持つ派遣人もいますが、私の職場で四年制の大卒を採り始めたのは私の時からで、歴史は浅いのです。家庭を持って自分の為だけでなく家族の為に生活しなければならぬ。特に女性にはこの問題は大きいので、男性の協力がなければ難しいと思います。
三宅 私の場合は公務員なので、結婚しても子供を持つても勤めを続けていけるような保障がいろいろあるのです。その権利を百パーセントも百二十パーセントも使っているのは良いとしても、

その為に他の女性同僚に仕事の流れで行き負担をかけることも有りがちです。また昇進の機会ですが、種々の資格試験をはじめ内部の昇格機会が色々な形であるのですが、それが女性には殆どまわって来ません。女は可愛いければよい、余計なことは言わない、という風潮がありますから、女性は余程の努力をして認められない限りは昇進が遅いのです。

白井 官庁は普通の会社とは違って、女性をやめてしまつと次に採用する人がいないのです。ですから勤めていることに意義がある。遅ればせながら少しずつでも女性が採用されていく。

三宅 安定していて、何とか家庭と両立させられる、という点では悪い所ではないですね。でもその中で男女の格差がどれ程大きいかを強調したいのです。

司会 将来、男性体質の社会に女性が出て行く時、男性社会を踏襲するのではなく、社会を変えて行かなければ、という感じがしますが……男性体質の職場で女性が仕事をすると、子供がある場合子供の将来はどうなるか、考えられたことがありますか？離婚も増えているでしょう。

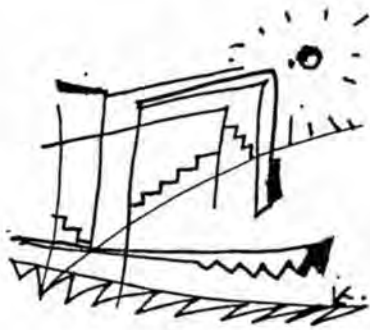
白井 いいえ、離婚は減っています。というのは結婚も減っているからです。但し中高年の離婚は増えています。夫婦は将来何に依存するかという点、夫はまず奥さん、預金、子供。奥さんは子供、預金、年金で、夫は絶対出てこない。女が働く場合、男性と同じに働

くのではなく働く時間を少なくするなどして、女性が無理なく働ける状態にもって行かなければならないと思います。

司会 それぞれの職場でこういった問題があるときに、会員同志と一緒に考えて悩みを理解し合う場を持つのは良いことです。

今日はいろいろなお話が出て大変有意義でした。今まで御提案下さったようなことを委員会に働きかけて下されば、会のほうで場所を探するなど事務的なことはできると思います。将来時間にも余裕が出来たら、会の企画にも加わって下さると良いのですけれど。そういうことをお願いして今日の会を終りたいと思います。有難うございました。

(今回ご出席にならなかった方々もいろいろ御意見があると思いますので、ともしびに投稿して下さい。)



萌え近き

萌え近き並木綴りて一走者

村上 光子

残照に片頬あづけ根釣立つ

池森 昭子

穂芒やルオー絵硝子日を返し

大竹 泰子

如月の日矢一條に佐渡青き

木下二三子

寺泊市の灯のもと魚凍てて

坂上 節子

魚座我れ日の三月を泳ぎたし

佐藤千鶴子

—大学婦人協会俳句会詠草

会員名簿順—



早春

指導 村上光子先生

わが家より郵便ポストまで五百歩ばかり三度となれば三千歩

長沢美津

五百歩の道にブロック塀を這う鶯かずら・十二単衣の群生

ときおりは十二単衣に屈みこみ黄白さては褐色の葉に触りみる

木の葉舞い犬走り去りしばらくをわれ立ちどまる疾風のなか

いつしかに立春の日も過ぎゆきて空あかるみて雲のたゆたい

都立板橋養育院を

見学して

東武東上線大山駅から徒歩五分。

商店街を抜けた所に都立板橋養育院がある。老人ホーム、ナーシングホーム(特別養護老人ホーム)、老人医療センター、老人総合研究所から成る老人総合センターで、このような施設としては申し分のない立地条件と言えよう。東京支部では昨年十月に見学させて頂いた。

まず映画と説明で各施設の概略を頭に入れてから、日常生活の現場を案内して頂いた。見学を通じて感じたのは、高齢化社会の到来に備える行政側の戸惑いであった。現在、都民千二百万人のうち六十五歳以上の老人世帯が12・9%(全国平均9・3%)であるが、対象となる方の絶対数の多さでは世界に類を見ないので、お手本にするものは何もないことである。二十年後にはそれが25%にもなる見込みだという。都でも福祉局の予算の半分は高齢者対策に当てているそうだが、満足出来る水準には程遠い上に金銭では解決のつかない点も多い。

一例を挙げると、社会に於ける老人ホームの位置づけの低さがある。

寝たきりになった時、世間体を気に

して特養ホームより老人病院を望む

家族が多いそうである。しかし病院

は医療行為を受ける場であり、ホーム

は生活する所として存在している

ので、入浴や運動等のサービスの基

準がかなり異なる。見学中、ナーシ

ングホームでは二十名程の方が、ポ

ランテニアの若い女性の指導のもと、

波のリズムを身体で表現していた。

このような刺激や訓練を受けられる

のは確かに集団生活のメリットの一

つであろう。「世間体に振り回されず、

適した施設を選んで欲しい」という

職員の話が心に残った。

また、社会変化に伴う家族の介護

機能の低下という問題もある。現在

老人介護の九割は女性が担っている

が、核家族化が進むにつれ手代りが

ない為負担は重くなる。女性の高学

歴化は社会参加を促すが、反面介護

人員の減少に拍車をかける結果とな

っている。現場の方々の厳しい仕事

を見るにつけても、私達もつとも

っと積極的に関心を持ち、声を挙げ、

身体を動かさねばならない時が来て

いると痛切に感じた一日であった。

なお養育院の石崎富江氏は二十七

代目で、初めての女性の院長として

献身しておられる。(羽山)

会員。文学博士。長沢美津編「女人和歌大系」全六巻、
「部類長沢美津家集」他、季刊「女人短歌」の編集責任者。

東京支部 新入会員

氏名	出身校	住所	氏名	出身校	住所
能登路 雅子	大東女大		辻福志 津佳	恵心智大	
平松 麗代	東日東		川村 眞喜	上才レゴ	
山田 美奈	聖上武		松永 幸正	茶白聖青	
吉田 眞芳	聖上武		山品 美子	日東芸日	
神山 芳ゆき	武津早		山田 裕	津津聖	
山品 美子	武津早		藤田 裕	日東芸日	
大岩 洋子	武津早		阿佐 幸裕	津津聖	
吉田 千鶴	武津早		秀島 幸裕	津津聖	
石川 孝子	武津早		種山 幸裕	津津聖	
壽里 亜紀	武津早		菱山 幸裕	津津聖	
浅井 眞理	武津早		新山 幸裕	津津聖	
笹谷 眞典	武津早		山花 幸裕	津津聖	
海原 典裕	武津早				
小林 幸子	武津早				
小川 幸子	武津早				
細川 幸子	武津早				
磯上 幸子	武津早				
三福 幸子	武津早				
水谷 幸子	武津早				
井井 幸子	武津早				
浅枝 幸子	武津早				

(昭和62年10月現在)

〔物故会員〕

稲富照子	大田	62年1月26日
水上貞美	女	62年3月6日
下世古木	踐	61年10月26日
鈴古	田	62年6月10日
		62年6月3日

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

老人ケアに捧げる

山崎倫子前会長

「武蔵野市立北町高齢者センター」
 (鉄骨鉄筋コンクリート地下一階地上二階建て延べ床面積538㎡)が昨年十月武蔵野市にオープンした。これは高齢者社会に適した老人ホームと、地域住民との交流をはかる二つの機能を兼ね備えた新しいタイプの施設である。大学婦人協会前会長で医師の山崎さん御夫妻が寄付した土地を、市が御夫妻の意志にそって「新しい型の高齢者施設」として建設、一階にコミュニティケアサロン、二階にワンルーム五戸の小規模サービスパールがある。細かいところに行き届いた施設で、都が計画しているシルバークラス構想のモデルケースとして注目されている。

センターの医療と運営は御夫妻が中心になってあたら

(今村)



投稿募集

一、表紙の題字「ともしび」を考えてください。横書きでイラスト、毛筆、版画など何でも自由です。

一、俳句、短歌、エッセイ、書評などお気軽に。

切は四月末日。

宛先は、支部事務所迄。

編集後記

十一月初めから暮も押しつまる迄、足繁く飯田橋婦人情報センターの一室に通い、第三号作りに力を合わせました。

座談会の内容をなるべく詳細にお伝えしたいので、一、二削減した記事もありますが、再び取り上げたいと思いますのでご期待下さい。

「ともしび」創刊の折に「おみそ」で加えて下さい、とお願ひした通り、頼母しい編集諸姉のスカートの端をしっかりと握って一年余りをやってみて来ました。編集会議はなごやかな内にも談論風発、私にとっては得難い勉強の場となっております。

(岡庭)

ともしび 三号 発行日 一九八八年二月一日 発行 大学婦人協会東京支部 編集 若井綾子
 〒160 新宿区新宿七十七 八戸山マンション二四一 号 Tel 〇三二二〇二一〇五七二 印刷 タナカ印刷機